

# Youth Manna

マルコ1:35

さて、イエスは朝早く、まだ暗いうちに起きて寂しいところに出かけて行き、そこで祈っておられた。

2024/2/5(月)

## マタイ14:1-12

①ヘロデは、自分の兄弟ピリポの妻ヘロディアを見初め、奪い取った(3)。ヨハネはこのことを非難し続けた(4)。  
 ②ヘロデはヨハネを殺したいと思っていたが、民に認められた預言者であったために恐れて殺害を実行できずにいた(5)。  
 ③ヘロディアの娘がヘロデの誕生日に踊りの対価として、母にそそのかされて、地下に投獄されたヨハネの首を持ってくるようにヘロデに命じ、ヨハネは殺された(6-11)。  
 →本来、国を正しく治めるはずの王が、娘を正しく導くはずの母が、ヘロディアの娘が罪を犯すことを助長している。  
 ☆(他の人が)罪を犯すことを助長する行為はどんなことがあるかな?もし、自分も周りの人も罪を犯す可能性があるのであれば、それをやめよう。  
 ☆(個人的感想ですが)いつか時間があたらオペラ「サロメ」を観てみたいです!みんなも観てみてね。

2024/2/6(火)

## マタイ14:13-21

●バプテスマのヨハネが殺された知らせを聞いたイエス様は一人寂しいところに行かれた。そんなイエス様の後を追ってきた群集を見て、イエス様はどうされたと書いてあるかな?  
 ●イエス様は「あなたがたがあの人たちに食べる物をあげなさい」と言われた。その時弟子たちが持っていた物は?群集の数は何人だった?  
 ●自分にあるものを「これしかない」と思うことはあるだろうか?それを主にささげ、イエス様から再び受け取り、イエス様の命令に従う時に、イエス様の御心は成されることを信じよう!

2024/2/7(水)

## マタイ14:22-36

弟子たちは船に乗ったが向かい風に悩まされた。そして水の上を歩くイエスを見つけたが、それがイエスだと分からず、恐れから「あれは幽霊だ」とさえ叫んだ。イエスは「わたしだ。恐れることはない。」と言われ、ペテロはイエスに信頼して水の上を歩き始めた。しかし、強風を見て怖くなり、沈みかけた。  
 私たちもイエスから目を離して現実を見ると、すぐに不安や恐怖に押しつぶされてしまうことがある。反対に、困難の中にあってもイエスを見ているなら、平安が与えられるのである。いつもイエス様に信頼していられるようお祈りしよう!

2024/2/8(木)

## マタイ15:1-20

パリサイ人や律法学者たちもイエスのところに集まった。それは教えを聞くためではなく訴える口実を探すためであった。

8.9v 「この民は口先でわたしを敬うが、その心はわたしから遠く離れている。彼らがわたしを礼拝しても、むなし。人間の命令を、教えとして教えるのだから。」  
神様のことば、聖書から生きてると真に言える歩みができているだろうか?教会に行った時、セルに行った時だけ教会モード、それ以外の生活はこの世の人と変わらない、ということはないだろうか?

パリサイ人、律法学者もイエスさまのことばを聞いているが悟ることなく、むしろ敵意を募らせた。  
ただ聞くのではなく、神様に心を開き、みことばを素直に受け取れるよう祈ろう!!

2024/2/9(金)

## マタイ15:21-28

●この話に出てくる女性は何人だった?  
 ●イエス様はご自分がイスラエル人のために遣わされているということで、女性の願いを断ったのに、この人は諦めなかった。そこにはイエス様に対するどんな願いがあったと思う?  
 ●カナン人の女性は無理かもしれない状況でも願い続けるならイエス様は必ず聞いてくださると信じていたんじゃないかな。きみは無理だろうって祈ることも諦めてることない?

2024/2/10(土)

## マタイ15:29-39

イエス様がたくさんの人を癒したことや、7つのパンと少しの魚を祝福して、男性だけでも4000人いた人々に食事を与えたことが記されているね。  
 イエス様がなされたみわざもとてもすごいことだけれど、その始まりはイエス様の「かわいそうに」と人々を愛する心、あわれむ心からきていることに目をとめてみよう。そしてその愛するおもいをもって奇跡をおこし、弟子たちにも役割を与えて一緒に仕えようとされたね。  
 私たちも神様と一緒にそれぞれの場所に出かけている。その場所にいる人たちに神様の心を受け取って愛を示していこう!

2024/2/11(日)

## マタイ16:1-12

パリサイ人とサドカイ人が一緒にイエス様を訪れて来た。それは当時、神学的に対立していた二つの考えがイエス様を陥れるために、なりふり構わず共謀したことを意味していた。彼らはイエス様にしるしを求めたが、それはイエス様のみわざやみことばに難癖をつけてイエス様を非難するためであった。2,3節のイエス様のことばの意味は、イエス様がすでになされた働きや語られたことばを見るならば、イエス様が誰であるかを容易に悟ることができるはずだということの意味している。しかし、イエス様を認めようとしないうちは、どのようなしるしを見せられても分からない。そもそも、イエス様をメシアと認めることを拒否している彼らには、どのようなしるしを示しても悟ることができるはずはなかった。  
 祈り：私たちはみことばを真に悟ることができるように。